

「銅板腐食試験」の原理

よく磨いた銅板を試料液体（10cc）に浸し、規定の試験時間（3 時間）、規定の試験温度（100℃）に保った後、これを取り出し洗浄して、銅板腐食標準と比較することで、試料の銅に対する腐食性を判定する



サンプル 1
一般的工業用鋳物油



サンプル 2
LS ベルハンマー原液



サンプル 3
硫黄系極圧潤滑剤



サンプル 4
塩素、硫黄含む
不活性系極圧潤滑剤

| 銅板腐食度 (活性イオン) | 不活性 | 活性 | 活性 | 不活性 |
|------------------|-----|----|----|-----|
| 塩素系添加剤 | なし | あり | なし | あり |
| 硫黄系添加剤 | なし | あり | あり | あり |

サンプル 2 と 3 に腐食状態（黒ずみ）が発生していますが、塩素系添加剤ありのサンプル 4 では発生しておりません。このことから塩素系添加剤が銅を腐食していないことが一目瞭然でわかります。そして、サンプル 2 の弊社商品「LS ベルハンマー」においては、金属を改質状態（表面硬度を上げる）仕事により黒ずみはありますが、金属が腐食して脆くなるのではなく鍛えられている状態であることがわかります。

●製造販売元